

【専門教育科目/公衆衛生看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健所)		選択	1	4	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
山崎 洋子 他	301	y.yamazaki	月曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	保健医療福祉行政における保健所の機能と役割、保健所の主な業務内容を理解し、保健所保健師の役割や連携の在り方を検討する。保健師の行う家庭訪問に同行することを通して地域住民と接することにより、結核管理の実際、難病の取り組みを实地にて体験し、保健医療福祉行政の在り方や公衆衛生看護管理の在り方を検討する。また、健康危機管理や食品安全管理、薬物乱用予防など公衆衛生に関わる健康問題に対する組織的取り組みを実習、学内実習で学ぶ。				
学習上の助言	保健所の機能について、復習した上で実習保健所の業務概要を熟読し、実習に臨む。				
教科書	教科書は指定しない。				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目で使った教科書 ・厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2020/2021 /厚生労働統計協会 ・最新 公衆衛生看護学 第3版 /編:宮崎美砂子 他 /日本看護協会出版会 /2019 ・新版 保健師業務要覧 第3版 /編:井伊久美子 他 /日本看護協会出版 /2018 				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	保健所の機能と組織体系、法的根拠が理解できる。		HSU (1~5) NS(1~5)		
②	公衆衛生看護の対象の把握方法と健康課題解決方法が説明できる。		HSU (1~5) NS (1~5)		
③	地域ケアシステムについて理解し、保健所保健師の役割を説明できる		HSU (1~5) NS (1~5)		
④	健康危機管理、公衆衛生看護管理を理解できる。		HSU (1~5) NS (1~5)		
⑤	地域保健の多様な組織間の連携の方法 保健師の役割を説明できる。		HSU (1~5) NS (1~5)		
授 業 計 画					
1. 実習時期と期間 6月~7月の1週間のうち2日間					
2. 実習施設 県内保健所(富士東部保健所)					
3. 実習目標 公衆衛生の第一線機関とされる保健所で実習することを通して、以下のことについて学ぶ。 (1) 保健所の機能や役割 (2) 地域のケアシステムの中で機能する看護専門職の役割 (3) 公衆衛生看護の基本となる家庭訪問援助技術、相談的、教育的保健指導技術 (4) 地域の健康課題の改善をはかるための施策化のプロセス					
3. 実習の展開					
実習日	実習内容			備 考	
	午前	午後			
第1日<学内>	・公衆衛生看護学実習全体オリエンテーション	・保健所オリエンテーション ・実習場所の確認、集合時間 交通手段、持ち物等 ・実習保健所の概要を整理する。 ・保健所で学びたいことの整理	・保健所の担う広域的、専門的・技術的役割の理解		
第2日<学内>	・保健所の業務の説明	富士東部保健所管内地区診断 遠隔授業	・公衆衛生における保健所業務の実際の理解		
第3日<保健所・学内>	保健所オリエンテーション、所内見学等	富士東部保健所管内地区診断	健康危機管理 結核管理状況 人材育成		
第4日<保健所・学内>	・保健所の保健福祉事業参加、説明	まとめ	地域職域連携事業などを 含む		
第5日<学内>	・実習保健所の参加事業報告会 ・実習内容と学びの共有	・保健所実習カンファレンス (テーマは実習内容による) ・記録物の提出	公衆衛生看護における保健所保健師の役割、公衆衛生看護管理の理解		
学習課題・学習時間(時間)					
公衆衛生看護学のまとめとなる科目である。住民の健康を守る公衆衛生第一機関としての保健所の特定について、事前の実習先の保健所のホームページにある業務概況を読み把握すること。また、疑問点を整理すること。 必要時間: 5時間					

【専門教育科目/公衆衛生看護学】

総合評価割合(%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	50	30	10	10	100
総合力指標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	10	10	10	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	10	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
問題を発見・解決する力		0	10	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
レポート	①	✓	日々の記録、レポート、カンファレンス記録を総合的に評価する。				日々の記録から学生の理解度を 確認し、振り返りを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①	✓	まとめの発表について評価する。				発表会において、指導者、教員 が講評する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①	✓	記録、資料等を正確に整理できる。				内容や整理状況を確認して、 必要時、個別にコメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
その他	①	✓	出席日数と実習に取り組む態度、グループで行う発表等を総合的に 評価する。				欠席及び実習態度は減点の対象となる。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	望月 宗一郎、渡邊 美樹、伊丹 幸子						
教員の実務経験	担当教員は、保健所・市町村における行政保健師活動および訪問看護活動、さらに大学病院における医療連携室での退院調整や療養生活相談等の経験を有する。						
実践的授業の内容	保健医療福祉行政のあり方や公衆衛生看護管理のあり方を、現場の公衆衛生看護活動に意味づけしながら指導し、人々の暮らしに寄り添った看護に必要とされる知識の習得を目指す。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・実習全日に出席し、積極的な態度で実習に臨むことを重視する。理由のない欠席はしないよう心がけること。 ・今後、新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバス内容が一部変更となる可能性がある。 ・本科目は、保健師課程選抜者のみ履修可能である。 						